

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校教育の3本柱である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

1. 「確かな学力」の育成

(1) 高大接続システム改革会議最終報告や次期学習指導要領等を見据えつつ、大阪府教育振興基本計画の下、「確かな学力」定着のための教育力を強化する。

ア 生徒ひとりひとりが、自らの将来像に基づいて学習計画を設定できる選択科目の精選と充実を図り、進路目標を実現する教科特別講習等を充実させる。

※ 平成31年度までに、平成28年度に再構築したカリキュラムの検証を行い、生徒が希望する進路の実現に対応できるものとして完成させる。

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度に対する肯定的回答を、平成30年度には85%以上にして維持する(平成28年度81%)。

イ 「主体的・対話的で深い学び」実現のために、ICT機器やネットワーク環境を充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。

※ 平成31年度には60%以上の教員がICTを活用した授業を実施できるようにする(平成28年度39%)。

ウ 入学時の学力を卒業まで維持・発展・向上すべく、生徒に、自宅等における(授業外の)学習時間を毎日2時間以上行うよう、習慣づけを指導する。

※ 生徒、保護者にアンケート等を実施しつつ、自宅等で2時間以上学習する習慣のある生徒を平成31年度に全体の70%以上にする。(平成28年度36%)

2. グローバル人材の育成

(1) 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校内外での英語使用機会を増加させる。

ア 英語の4技能の向上のために、校内でのNETの一層の活用を推進する。(luncheon meetingの実施など)

イ 校外における英語使用機会の拡大策として、関西外国語大学など近隣の大学の学生や留学生との交流等の可能性を模索していく。(平成31年度までに)

3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充

(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための、生徒、教職員、PTAの意識を醸成する。

ア 生徒、教職員、PTAに対する人権教育や、人権意識醸成の機会を充実させる。

イ 生徒、教職員、PTAの情報モラルや、メディアリテラシーに関する最新で適切な知識を得る機会を作っていく。

(2) 生徒に、大学進学等のその先、10年後、20年後を見通したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるキャリア教育を充実させる。

ア 現状の学年毎の計画から高校3年間を見通した計画へと発展させ、さらに大学等への進学後のキャリア形成も織り込んだロードマップを作成する。

※ 卒業生の進学後の追跡調査を実施し、その分析結果を反映させた進路指導資料を作成する。それを活用することで、学校教育自己診断のキャリア教育に関する肯定率を平成31年度までに85%以上にする(平成28年度81%)。

イ 本校の伝統となっている、学習面を危惧することなく部活動ができる仕組み、環境を維持する。

※ 平成29年度以降も、部活動加入率90%を維持し、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価を平成31年度には75%以上にする(平成28年度69%)。

ウ 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるために、進路指導體制の充実をはかる。

※ 卒業直前までバランスのとれた学力を身につけさせるべく、平成31年度までに、大学入試センター試験における5教科7科目受験者数を卒業見込み者の40%(144名)(平成28年度は16%(57名))に増加させる。

※ 平成31年度までに、国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者の30%(108名)以上(平成28年度は12%(42名))に、国公立大学の現役合格者数を卒業見込み者の10%(36名)以上に(平成28年度は4%(13名))増加させる。

※ 平成31年度までに国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への実進学者数を卒業者の60%にする(平成27年度は47.4%)。

エ 生徒に、大学進学等のその先、10年、20年後を見越したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるため、外部施設見学や民間人講義を推進する。

※ 近隣施設である京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー、京都大学農場の訪問実施や、京都大学等出身の社会人を講師として招聘する。

4. 教員の資質向上、生徒理解の促進と相談体制の充実

(1) 教職員研修を充実させ、個別指導や相談体制を整備するとともに、府立学校の将来を支えていくミドルリーダーを育成していく。

ア 教職員が、生徒を把握し緊密な人間関係を構築できるように、教職員研修の内容を充実させ、教職員の相談能力の養成強化をめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断結果における悩み相談への肯定率75%以上にする。(平成28年度72%)

イ 生徒が、学力に加えて、豊かな人間性やたくましく生きるための健康・体力を身につけられるよう、教職員が生徒を指導する体制を整備する。

※ 生徒会活動・学校行事への肯定的評価を平成29年度以降も90%以上を維持する(平成28年度92%)。

ウ 府立学校の将来を支えていくミドルリーダーを育成すべく、学校経営支援グループが募集する「育成支援チーム」事業への応募体制を整える。

※ 平成30年度までに、「育成支援チーム」事業への応募体制を整える。

(2) 教職員の長時間勤務の縮減

ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、「全校一斉退庁日」や、「ノークラブデー」の実施を徹底、推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
【学習指導】 ・大阪府教育委員会からの『学校教育自己診断実施上の留意点』に留意し、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の設問を、昨年度までの「授業の進度や内容について満足している」(昨年度の肯定的回答81%)から変更し、「牧野高校の授業はわかりやすい」として実施したところ、肯定的回答は69%となった。今後はこれを定点観測していくことにする。	【第1回】平成28年6月19日 ・もともと学力レベルの高い学校なので、もっと上位の大学等への実績をめざす学校となるように、教育環境の整備等にも努めていただきたい。 ・共感できる学校経営計画の内容であり、実践的に記載されているので、先生方の理解のもとにより学校をつくりあげてほしい。 ・近隣、地域との関わりの中で「グローバル化」と「グローバル化」もめざしてほしい。

府立牧野高等学校

- ・前年度と同じ「授業内容等について先生に質問しやすい」への肯定的回答は73%であった。(前年度74%)。
- ・いずれも、今後の改善余地が十分あるものと考えている。
- ・ICTを活用した授業を行っていると回答した教員は59%になった。(前年度39%)が、生徒向けの「ICT機器やネットワークを利用した授業が多い」の肯定的回答は、前年度の53%から54%であった。本校全体のICT環境自体の更新・大幅改善が必須と考えられる。
- ・新たに設定した生徒向けの自己診断で、授業の予習、復習が不十分(できている、まずできているの回答が合計で45%、あまりできていない、できていないの回答が合計で55%)であることが分かり、課題である。
- ・保護者の自己診断では、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」には肯定的回答が58%、否定的な回答が42%あり、生徒の自己診断(肯定的回答が69%、否定的な回答が31%)とやや評価が異なるが、この点も課題である。
- ・教員向け自己診断で、「到達度の低い生徒に対する指導ができている」に対する肯定的回答は、前年度の28%から40%になったが、A(「よくあてはまる」)の回答が2年連続0%であることは課題として残る。
- ・教員向け自己診断の、「学習意欲の高い生徒に対する指導ができている」に対する肯定的回答は、前年度の45%から63%に改善し、A(「よくあてはまる」)の回答も、前年度の5%から10%に改善している。
- ・「図書館が利用しやすい」に対する生徒の肯定的回答が75%となった。前年度の66%、前前年度の63%に比べて大きく改善している。担当の教員の努力で整備が進み、自習室としても良く利用するようになった。
- ・生徒向け学校教育自己診断における「学校の授業以外の1日当たり平均学習時間が2時間以上」は、39%とやや上向いたが、1年生では16%、2年生は21%、3年生が81%の実態で、1、2年生への働きかけ必要。

【生徒指導】

- ・「牧野高校は楽しい」に対する生徒の肯定的回答は92%で高水準を維持。
- ・「基本的な生活習慣に対する(遅刻・規則遵守等)に対する指導には納得できる」に対する生徒の肯定的回答は67%で、前年度の79%から低下しており、生徒の意識と指導方法の間のギャップについて検討も必要。
- ・生徒の自己診断では、「牧野高校はゴミの分別指導が行われている」で肯定的な回答が昨年比べて大幅に増加(60%⇒84%)しており、生徒会活動でのキャンペーンなどが功を奏していると考えられる。

【学校運営】

- ・『学校教育自己診断実施上の留意点』に留意し、生徒向け学校教育自己診断のキャリア教育に係る設問を「進路関係の個別指導や講習は適切に行われている」から、「将来の進路や生き方について考える機会がある」に変更して実施したところ、肯定的回答は80%となった。今回新たに、「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」との問いを設けたところ、肯定的回答は75%となった。今年度以降これらを定点観測していきたい。
- ・部活動加入率90%は持続されているが、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価は、前年度の69%から、27年度並みの64%に下がった。
- ・運動系、文化系とも近畿大会近畿大会出場等の好成績を収める一方、学習との両立が難しくなっている状況に鑑み、「ノークラブデー」等の徹底に加えて、新たな施策を講じる必要を痛感している。

- ・最後によかったと思える人生を送ってほしいので、中期目標にある「豊かでたくましい人間性の育成」には大きく期待したい。
- ・10年、20年、30年後を見越したキャリア形成の考え方に共感する。答えのない問題に対し、自分で学んで答えを出せる力が本来の学力であると考えるので共感できる。
- ・大学のさらにその先を視野に入れて、すべての教科を学習することで学力を身につけさせたい。バランスのとれた学力こそが社会が求めるものであろう。
- ・新しく校長先生を迎えられ、牧野高校を一層発展させる機会にしてほしい。

【第2回】平成28年12月15日

- ・学校教育自己診断における2つの項目、「教職員間の十分な相互理解に基づいて教育活動が行われている」及び「教育活動について教職員で日常的に話し合っている」の数値が芳しくないことが、課題ではないか。
- ・現在の標準服を制服化することについては、どのように考えているか。
- ・生徒の授業アンケートにおいて、国語と数学で生徒の興味・関心が低いことについて、生徒がどのように授業をとらえているか、何か把握していることはあるか。
- ・学校として、多くのことを企画し、実行されていることはとても良い事だと思う。その中で何か進めにくいところはあるか。

【第3回】平成29年2月8日

《学校教育自己診断について》

- ・新たに設定した生徒の自己診断で、授業の予習、復習が不十分であることが分かり、課題である。
- ・保護者の自己診断では、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」に否定的な回答が4割以上あり、生徒の自己診断とやや評価が異なるが、この点も課題である。
- ・教員の自己診断の「到達度の低い生徒への指導ができている」に対するA(「よくあてはまる」)の回答が2年連続0%となっていることを、課題として受け止めるべきである。
- ・頭髪等の生徒指導に関する保護者や生徒の回答がどうなるか心配していたが、本校では問題なく、大丈夫だったので良かった。
- ・部活動に90%以上が参加していることは素晴らしいことだ。
- ・人権教育に関する評価が高いが、具体的にはどのような内容なのか?→外国ルーツや、LGBTの当事者、被害の被害者等の生の声を聞く講演会等を、各学年で年に2回実施している。
- ・いじめの対応に関する評価が高いが、どういう取り組みをされているのか?→いじめに関するアンケートは、担任も見ることができないようにして回収し、集計や検討も第三者で中立的に行い、個々の生徒に丁寧に対応した。
- ・いじめの対応に関するアンケートでは対応が必要な事例が何件くらいありましたか?→中学時代などの、過去の事例について書いていた生徒も多かったが、それらも含めて約20件ほどで、今回は特に深刻なものはなかったが、個々の生徒に個別に対応した。
- ・いじめ等に関しては、早めに対応することが何よりである。
- ・教職員の交流に関する自己評価を見ると、もう少し教職員の交流を増やすべきではないかと思う。そのことによって、生徒の授業評価の改善にもつながるのではないか。
- ・本校では、きちんと目標を立て、着実に達成されていることを評価する。
- ・グローバルな人材育成のために、留学生とふれ合う機会を増やしてほしい。

《その他関連事項について》

- ・センター試験を5教科7科目型で受験する生徒は増えたか。→昨年度57名が、今年度は85名となり、約1.5倍に増えた。
- ・大学入試の新制度への対応はどうか。→英語の4技能については、来年度は1年生全員に対して、GTECの4技能を受験を導入することを決めている。
- ・教員の労働時間が昨年度よりも若干増えているので、働き方改革について対策を講じる予定である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成	<p>(1) 「確かな学力」定着のための教育力強化</p> <p>ア 選択科目の精選を図るとともに、教科特別講習を充実</p> <p>イ 「主体的・対話的で深い学び」実現のために、ICTを活用した授業を推進</p> <p>ウ 生徒の自宅等における学習時間を毎日2時間以上となるよう、習慣づけを指導</p>	<p>「わかる授業、伸ばす授業」へ授業改善をめざす。</p> <p>ア・平成28年度に再構築したカリキュラムの検証を行い、生徒が希望する進路実現に対応できるものとして、選択科目のユニット化、モデルの研究・作成を行う。</p> <p>・各教科で基礎力養成・応用力伸張のための特別講習と生徒個々に応じた特別指導を実施し、生徒の進路実現を支援する。</p> <p>イ・学校のネットワーク環境をタブレット型PCに対応できるよう整備を進め、タブレット型PC用のソフトウェア資源を充実させる。</p> <p>・教員のICTスキルの向上に努め、ICTを活用した授業を校内で奨励する。</p> <p>ウ・入学時の学力を卒業まで維持・発展・向上すべく、生徒、保護者にアンケートを実施し、自宅等における(授業外の)学習時間を毎日2時間以上行うよう、習慣づけを指導する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度での肯定的回答を、85%以上にする(平成28年度81%)。</p> <p>イ・50%以上の教員がICTを活用した授業を実施できるようにする(平成28年度39%)。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断におけるICT関連項目の満足度を60%以上にする。(平成28年度53%)</p> <p>ウ・平成29年度中は、自宅等で2時間以上学習する習慣のある生徒を全体の50%以上になるようめざす。(平成28年度36%)</p>	<p>ア・『学校教育自己診断実施上の留意点』に留意し、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の設問を「授業の進捗や内容について満足している」から、「牧野高校の授業はわかりやすい」に変更して実施したところ、肯定的回答は、69%となった。今後はこれを定点観測していくことにする。(△)</p> <p>イ・学校教育自己診断でICTを活用した授業を行っていると回答した教員は59%になった。(○)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器やネットワークを利用した授業が多い」の肯定的回答は、前年度の53%から54%になった。本校ICT環境自体の更新・大幅改善が必須と思量。(△)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断における「学校の授業以外の1日当たり平均学習時間が2時間以上」は、39%と上向いたが、1年生16%、2年生21%、3年生81%で、1、2年生への働きかけ必要。(○)</p>
2. グローバル人材の育成	<p>(1) 校内外での英語使用機会の増加</p> <p>ア NETの活用</p> <p>イ 近隣大学留学生等との交流</p>	<p>国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるため、校内外での英語使用機会を増加させる</p> <p>ア 校内でのNETの一層の活用を推進する。</p> <p>イ 近隣の大学の学生や留学生との交流等の可能性を模索する。</p>	<p>ア NET、英語教員、校長を交えた、luncheon meetingの29年度内での開催実施</p> <p>イ 関西外国語大学など近隣で英語力を強化している大学の学生や留学生との交流等の実施</p>	<p>ア・2年生英語プレゼンテーションに校長が参加。全てのクラスにおいて校長が英語で講評実施。1月に、校長とNETとのluncheon meeting実施。(○)</p> <p>・「EUが学校にやってくる」に応募。11月9日に体育館で英語プレゼンテーション実施。(◎)</p> <p>イ・関西外国語大学の元インターンシップ生で、現在は同志社大学の学生が不定期で来校。(○)</p> <p>・餅つき大会にマレーシア生徒3名来校、交流。(◎)</p>
3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充	<p>(1) 生徒、教職員、PTAの多様性を認め合い共生する意識の醸成</p> <p>ア 人権教育や人権意識醸成の機会の充実</p> <p>イ 情報モラルやメディアリテラシー知識習得機会の設置</p> <p>(2) 生徒が大学進学等のその先を見通したキャリア形成、社会での役割・使命を意識させるキャリア教育の充実</p> <p>ア キャリア形成意識の醸成</p> <p>イ 文武両道の伝統の維持継続</p> <p>ウ 入学から卒業まで、全教科で学力をつけさせる指導</p> <p>エ 大学進学等のその先を見越す意識づけのための外部施設見学や民間人講義実施</p>	<p>(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための、生徒、教職員、PTAの意識を醸成する。</p> <p>ア 生徒、教職員、PTAに対する人権教育や、人権意識醸成の機会を充実させる。</p> <p>イ 生徒、教職員、PTAの情報モラルや、メディアリテラシーに関する最新で適切な知識を得る機会を作っていく。</p> <p>(2) 生徒に、大学進学等のその先、10年後、20年後を見通したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるキャリア教育を充実させる。</p> <p>ア・現状の学年毎の計画から高校3年間を見通した計画へと発展させ、さらに大学等への進学後のキャリア形成も織り込んだロードマップを作成する。</p> <p>・キャリア教育に関する校内外の研修参加を推奨し、PTAや卒業生、地域と連携することでキャリア意識の醸成に取り組む。</p> <p>イ・本校の伝統である学習面を危惧することなく部活動ができる仕組み、環境を維持する。</p> <p>・部活動に加えて学習面等でプラスαの成果をあげた生徒の顕彰をする。</p> <p>ウ・生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるために、進路指導体制の充実をはかる。</p> <p>エ 生徒に、大学進学等のその先、10年、20年後を見越したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるため、外部施設見学や民間人講義を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒、教職員、PTAに対する人権教育や、人権意識醸成の機会を平成29年度中に2回以上行う。</p> <p>イ 生徒、教職員、PTAに対する情報モラルや、メディアリテラシーに関する最新で適切な知識を得る機会を平成29年度中に1回以上行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断のキャリア教育に関する肯定率を平成29年度に85%以上にする(平成28年度81%)。</p> <p>イ・部活動加入率90%を持続し、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価を平成29年度には70%以上にする(平成28年度69%)。</p> <p>ウ・国公立大学の現役合格者数を卒業見込み者の5%(18名)以上に(平成28年度は4%(13名))する。</p> <p>・平成29年度の国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への実進学者数を卒業者の50%以上にする(平成27年度は47.4%)</p> <p>エ 近隣施設である京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー、京都大学農場の訪問実施や、京都大学等出身の社会人を講師として招聘することを計画、実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒、教職員、PTAに対する人権教育は、生徒は、1年生2回(10月、11月)、2年生2回(11月、1月)、3年生2回(6月、9月)を実施。教職員も2回(7月、12月)実施。PTAも2回(6月、11月)行われた。(○)</p> <p>イ・生徒に関しては、上記とは別に情報モラルやメディアリテラシーに係る教育を行うとともに、教職員とPTAについては、上記のうちの各1回(教職員12月、PTA11月)が、情報モラルやメディアリテラシーに関する研修会や講演会として行われた。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・『学校教育自己診断実施上の留意点』に留意し、生徒向け学校教育自己診断のキャリア教育に係る設問を「進路関係の個別指導や講習は適切に行われている」から、「将来の進路や生き方について考える機会がある」に変更して実施したところ、肯定的回答は80%となった。今回新たに、「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」との問いを設けたところ、肯定的回答は75%となった。今年度以降これらを定点観測していきたい。(○)</p> <p>イ・部活動加入率90%は持続され、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価は、27年度並みの64%に下がった。(△)</p> <p>・運動系、文化系とも近畿大会近畿大会出場等の好成績を収める一方、学習との両立が難しくなっている状況に鑑み、「ノークラブデー」等の徹底に加えて、新たな施策を講じる必要を痛感している。</p> <p>ウ・国公立大学の現役合格者数は、卒業見込み者の6%(23名)になった。(◎)</p> <p>・平成29年度の国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への進学者数は卒業者の52.4%だった。(◎)</p> <p>エ・京都大学と同志社大学への訪問、教授による講義の受講(一日体験入学)を実施、1年生77名、2年生23名の計100名が参加した。(◎)</p> <p>・同志社大学出身の社会人講師の講演(1年生向けに、9月正岡明氏、11月八木早希氏)と、京都大学出身の社会人講師の講演(2年生向け、1月福井栄一氏)を実施。生徒には大変好評であった。(◎)</p>

府立牧野高等学校

<p>4. 教員の資質向上、生徒理解の促進と相談体制の充実</p>	<p>(1) 教職員研修を充実させ、ミドルリーダーを育成。 ア 教職員研修の内容を充実させ、教職員の相談能力を養成強化 イ 教職員が、生徒会活動等を積極的に支援し、豊かな人間性や、健康・体力が身に付く体制を整備 ウ ミドルリーダーの育成 (2) 教職員の長時間勤務縮減 ア 「全校一斉退庁日」や、「ノークラブデー」の実施を徹底、推進</p>	<p>(1) 教職員研修を充実させ、個別指導や相談体制を整備するとともに、府立学校の将来を支えていくミドルリーダーを育成していく。 ア 教職員の生徒に対する個別指導や相談能力の養成強化に資するため、校内外研修への参加を奨励するとともに、スクールカウンセラーとも連携して研修内容を充実させる。 イ 教職員が、生徒会活動や学校行事を積極的に支援することで、「確かな学力」に加えて、「豊かな人間性」や、たくましく生きるための「健康・体力」を身につけ、「自らが考え行動できる牧野高校生」として、10年後、20年後の将来においても、社会的評価が得られるよう、生徒を指導する体制を整備する。 ウ 府立学校の将来を支えていくミドルリーダーを育成すべく、学校経営支援グループが募集する「育成支援チーム」事業への応募の体制整備する。 (2) 「働き方改革」や健康管理の観点から、「全校一斉退庁日」や、「ノークラブデー」の実施を徹底、推進する。 ア 教職員の意識改革を図り、「全校一斉退庁日」や、「ノークラブデー」の本校における実施を徹底、推進していく。</p>	<p>(1) ア 生徒の個別支援やカウンセリングに関する校内外研修等への参加者について、延人数を70人以上にする。 ・生徒向け学校教育自己診断結果における悩み相談への肯定率75%以上。(平成28年度72%) イ 生徒会活動・学校行事への肯定的評価を平成29年度以降も90%以上を維持する(平成28年度92%)。 ウ 「育成支援チーム」事業への応募体制(候補者選定、説得)を29年度に整える。 (2) ア 全校一斉退庁日」や、「ノークラブデー」の100%の実施をめざす。</p>	<p>(1) ア 生徒の個別支援やカウンセリングに関する校内外研修等への参加者は延べ30名だった。(△) 具体的に対応が必要な事案のために、複数回の打合せや会議を行い、多くの人数と時間を費やした。 ・生徒向け学校教育自己診断結果の「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への肯定率は72%と前年度と同じであった。(△) 3学年28クラスに対して、養護教諭の一人体制が続く中で、メンタル等の問題を抱える生徒の対応には限界があるが、組織的対応を追求したい。(△) ・『学校教育自己診断実施上の留意点』に留意し、今回新たに、「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」を設問したところ、肯定的回答は80%となった。今年度以降これらを定点観測していきたい。(○) イ 生徒向け学校教育自己診断の「生徒会活動は活発である」への肯定率は前年と同じ78%、「体育祭の内容は満足できるものである」「文化祭の内容は満足できるものである」への肯定率はいずれも91%であった。(○) ウ 想定より1年早く、平成29年度の「育成支援チーム」事業に応募し、採用され3回(7月、8月、12月)の研修を実施、対象教員21名の内19名が参加。本校の抱える経営課題に関し、討論・検討、調査研究、発表する中で、その内容が平成30年度の学校経営計画に反映できる状況になった。(◎) (2) ア 5月以降毎月発行した教職員向け校長レター「教職員のみなさんへ」1～12号(教職員会議で配布)で、「働き方改革」についての意識改革を促し、教員2名が病気休職する中で、時間外勤務の抑制に努めた。(○) ・「ノークラブデー」については、実施できているが、「全校一斉退庁日」や時間外勤務期間数については、教員間の差が大きいことが課題である。(△)</p>
-----------------------------------	--	---	--	---